

ノルディックスキー世界選手権札幌大会 開催まであと1年

オリンピックに匹敵する国際的なスキー競技の祭典「国際スキー連盟(FIS)ノルディックスキー世界選手権大会」が平成19年2月に札幌で開幕します。今回の特集では、ジャンプ競技の伊東大貴選手と上田市長の対談のほか、ノルディックスキー競技の魅力について紹介します。

特集についてのお問い合わせは、ノルディックスキー世界選手権札幌大会組織委員会 ☎281-2007へ
<HP>www.sapporo2007.com



札幌市長
上田 文雄

日本ジャンプ陣のホープ・ 伊東大貴選手と語る



いとう だいき
伊東 大貴

昨シーズンのW杯では、自身初のメダル獲得(3位)、年間の個人総合成績は日本人最高の13位と健闘。札幌市在住の20歳。下川町出身。



1 ジャンプを始めたきっかけは？

上田市長：「ノルディックスキー世界選手権」を来年に控え、今日は日本のジャンプ選手の中で、一番の活躍が期待されている伊東大貴選手にお越しいただきました。ジャンプを始めたのはいつごろになるのですか？

伊東選手：僕の出身は道北の下川町という小さな町なので、冬は外で遊ぶしかなく、幼稚園のころからスキーをやっていました。ジャンプは、小学4年の時、スキー場の近くにあるジャンプ台を遊び半分で飛んでみたのが最初。その時、なんてスリルのある競技なんだと衝撃を受け、それからは毎日のようにジャンプ台を飛んでいましたよ。当時は普通のスキー板のまま、親に内緒でしたけれど。その後、長野オリンピックのジャンプ競技を実際に見て、ジャンプに専念することに決めました。

2 ジャンプは踏み切りに注目

市長：ジャンプは、飛んでいるダイナミックな姿に注目が集まりがちですが、実は踏み切りが重要で、踏み切り台先端の30センチ手前辺りで全神経を集中すると聞きました。

伊東：そうですね。ジャンプは踏み切りのタイミングが命です。靴一足分のズレで距離が大きく違ってきますから、そこに注目して欲しいですね。

市長：あれだけのスピードでその瞬間をとらえるというのはものすごく大変ですね。滑ってくるときのスピードって時速何キロくらいなんですか？

伊東：大倉山競技場では、大体90キロくらいですよ。

市長：そんなに！いや～、本当にすごい!!



SAJ18承認第0251号

8月に大倉山競技場で行われたサマージャンプ大会では2日連続の優勝



SAJ18承認第0250号



ノルディックスキー世界選手権でジャンプ競技の会場となる大倉山競技場

